

シナイ通信

第19号

平成 23 年 9 月 30 日

NPO 法人 シナイモツゴ郷の会



TEL/FAX 0229-56-2150

MAIL shinaimotsugo93ks@ybb.ne.jp

<http://www.geocities.jp/shinaimotsugo284/>

989-4102 宮城県大崎市鹿島台木間塚
字小谷地 504-1 鹿島台公民館内

激烈な震災の影響を乗り越えて

継続する里親活動と広がるブラックバス退治の輪

放射能風評に負けない安全安心なシナイモツゴ郷の米

東日本大震災で被災された会員に心からお見舞い申し上げます。また、震災発生以来、頻発する余震に怯え、さらに自宅などの損壊に悩みながらも、里親活動、様々な自然再生作業、生き物・水質調査、ヒシ栽培事業などにご参加いただいた会員、里親、シナイモツゴ郷の米つくり手の会および地域住民の方々に敬意を表し、深謝します。

被災した里親小学校への支援と稚魚の補完

全滅した2校の魚を他3校で補って放流会を開催

6月28日、例年通り、里親小学校が育てたシナイモツゴ稚魚約300尾を鹿島台地区のブラックバスを退治したため池へ放流しました。残念ながら、東松島市立小野小学校と石巻市立開北小学校では津波で校庭池のシナイモツゴが全滅しました。しかし、他の3つの小学校の懸命な努力により約500尾の放流魚を準備することが出来ました。

自然再生活動は継続が最も重要です。このような悪条件の中でも大切なイベントを開催できたことは特筆すべき事と考えています。詳細 p6

広がるブラックバス退治の輪

9月上中旬は池干しの最適シーズンです。この時期に実施すると、8月末で農業用水の使用が終了するため稲作用水への影響なく、しかも、来年の田植えまでに貯水するための十分な期間を確保できます。また、9月は比較的気温が高いため、快晴時に池干しすると、水が多少残っても高水温になるので酸素欠乏に弱いブラックバスを完全駆除できます。

地域住民は3. 11の大震災により農業関連施設や

放射能風評被害により深刻な影響を受けていますが、今年も各地でため池の池干しを実施しました。郷の会は地域住民主体の池干しを積極的に支援しながら、ブラックバス駆除に努めています。

9月18日には10年以上前からブラックバスの大量生息が確認され、影響が最も懸念されていた鹿島台広長地区のため池で、地域の農業者により池干しが行われ、合計350尾のオオクチバスが駆除されました。



各地で進む池干しブラックバス駆除

小魚が増えた！ 3年連続池干しのため池

一方、鹿島台地区の隣り合う3つのため池では、大規模で構造が複雑なことから、H20年から3年連続で池干しが行われています。今年は9月4日の池干しを行い、終にオオクチバスの完全駆除が確認されました。併せて、モツゴ、ヨシノボリ、ジュズカケハゼなどの小魚が大量に確認されました。これらのため池では、小魚が増加して豊かな生態系が復元されつつあります。

このようにして、旧品井沼周辺ため池群では毎年池

干しが行われ、シナイモツゴ生息池周辺地域でブラックバスのいないため池が増加しています。

さらに、当会は、遺伝的多様性に配慮しながら、モツゴが生息しないため池でシナイモツゴを、タイリクバラタナゴが生息しないため池でゼニタナゴの復元を目指します。

シナイモツゴやゼニタナゴが泳ぐ小川を！

川遊びでシナイモツゴやゼニタナゴと会えたら、どんなに素晴らしいでしょう。私たちは、そのような豊かな自然の再生を目指しています。ため池の中でシナイモツゴとゼニタナゴが増えると、多くの場合、下流の水路へも泳ぎ出します。ひょっとすると、郷の会が実施している小川の生き物調査でシナイモツゴやゼニタナゴに会えるかもしれませんよ。



ゼニタナゴ生息池の調査(大崎市鹿島台 2011年5月):ヌマガイに寄生する浮上直前のゼニタナゴ稚魚を観察し繁殖を確認した。

風評をはね飛ばせ！ シナイモツゴ郷の米 放射能測定(5Bq 検出限界)で不検出

シナイモツゴ郷の米認証制度は3年目に入り、安全安心な環境保全米の提供に貢献しています。今年は福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染が心配さ

れる中で、郷の会は独自に水田の空中放射線量を7月からシンチレーションカウンターで測定してきました。シナイモツゴ郷の米水田の9月上旬の測定では、畦畔地表1mの放射線量が0.05~0.06 μ Svと極めて低レベルであることがわかりました。これは、福岡市の草地で会員が実測した値0.05 μ Svと同等レベルであり、郷の米の水田は放射能汚染の程度がかなり低いと考えられます。

9月中旬、収穫した郷の米の放射線量を検査機関に依頼し、ゲルマニウム半導体検出器により検出限界5Bqの高精度で分析した結果、4つの生産農家の全ての生産米で不検出となりました。これらの米はシナイモツゴ郷の米の栽培条件を満たしていることから、シナイモツゴ郷の米として正式に認証しました。シナイモツゴ郷の米はシナイモツゴが棲む水源の水で栽培した安全安心でとてもおいしい環境保全米です。是非ご賞味下さい。詳細はシナイモツゴ郷の米通信をご覧ください。詳細p4

水辺の自然再生シンポジウム

11月19日(土) 東京海洋大で開催

当会は毎年秋に企画責任団体として共同シンポジウムを開催しています。今年は東京海洋大学白鷹館(品川キャンパス)で、11月19日(土)に開催することになりました。今年のテーマは「水辺の自然再生—震災を乗り越える力強い活動」です。是非、ご参加ください。詳細p5

文責：高橋

環境省自然環境局長賞を受賞しました

二宮景喜

今年度の野生生物保護功労者としてシナイモツゴ郷の会が環境省自然環境局長賞に選ばれ、5月15日に東京で開かれた表彰式で表彰状と記念の盾をいただきまいりましたので、その様子を報告します。

表彰式は、環境省と日本鳥類保護連盟が主催する愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」の中で行われ、常陸宮殿下、同妃殿下がご臨席になられました。松本龍環境大臣と矢島稔鳥類保護連盟会長の挨拶のあと、常陸宮殿下から、鳥類保護を始めとする自然保護活動と今回の表彰団体をねぎらうお言葉がありました。

表彰式に先立ち念入りなりハーサルがあり、両殿下に一礼後、表彰状をいただくまでの手順を間違えないように頭の中で確認しながら順番を待ちましたが、大分緊張いたしました。

表彰式の後には、ものまねの江戸家猫八さんが司会進行役となり、自然保護に取り組んでいる活動家と小学生の意見交換がトークセッションという形で行われました。なかなかごやかで楽しい催しでしたが、出席者には宮様ご夫妻のほか、現役の大臣2人、著名な政治家、官僚が数多く出席し、にぎやかであると同時に

に多くのSPが目を光らせているという物々しい雰囲気もありました。



その後、記念写真撮影と立食式の懇話会がありました。懇話会では矢島鳥類保護連盟

会長の冒頭のあいさつの中で、東日本大震災の話があり、被災地域からシナイモツゴ郷の会が今日出席しているという特別の紹介があったのには予想外のことで驚いてしまいました。さらに、環境省の担当者から宮様にお会いしてお話申し上げるよと言われたのにはさらに驚きました。付添いの方から宮様ご夫妻に簡単なシナイモツゴ郷の会の紹介があったあと、宮様から「地震の被害はどうでしたか」というご質問がありましたので、状況をお伝えし、今は日常活動が早く再開できるように努力をしていると申し上げたところ、

うなずいておられました。殿下に直接的にお話する機会を与えられたのは、表彰者のうちわずかの人数のようでしたが、生物学を研究しておられる殿下にシナイモツゴについてお話しできたのは光栄なことでした。

その後、松本環境大臣にも会い、シナイモツゴ郷の会のことはよく知っているということでしたので、郷の会の紹介は省略し、活動の苦勞などを少しお伝えしました。

さて、今回の郷の会の表彰理由は「シナイモツゴ保護のため、池干しや人工産卵床によるブラックバスの駆除、人工繁殖技術の開発、里親制度やシナイモツゴ郷の米認証制度の導入などを実施した。また小学校への出前講座、シンポジウム等の開催、書籍の刊行など野生生物保護のための普及啓発に努めた」というもので、私どもの活動全体を評価していただいたものです。われわれの活動が環境省東北地方事務所の方の目に留まり、ご推薦をいただいたのがきっかけのようですが、大変ありがたいことです。この表彰を一つの励みとして、皆様とともに今後の活動を推進してまいりたいと思います。

SSC

て何？

飯塚 晃朗

先日、里親インストラクター向けのイベントジャンパーが支給されました。これを見て真っ先に気になったのは背中に大書された“SSC”です。・・・??? 「SSCて何?」。Sの一つがシナイモツゴであること以外、不明。元々乏しい英語の知識は、さらに遠ざかること十年、日本語さえ思い出せなくなったのだから忘れて当たり前と思っていたこともあり、今や消えかかっています。

それでもCが Conservation「管理・保護」であることは何とか分かりました。しかし、最初のSがわからない。「英語には里と郷の使い分けがないからここだけローマ字にした?」「英語の大学講師と博士がいてそんな馬鹿な!」自問自答を繰り返しても分からないので二宮理事長に電話でお尋ねしました。理事長からは最初のSが Society「協会・学会」でSとSの間に for が隠れていること、今後、当会が英文で世界に発信する際は Society for Shinaimotsugo Conservation が正式名称になることを教えていただきました。電話を終えてから、「当会もいよいよ世界に打って出るのか」の思いと同時に、世界にはシナイ沼より有名なシナイが幾つかあるのを思い出しました。シナイ半島、シナイ戦争、シナイ(山)、シナイ文学、シナイ版聖書写本などです。

戦争は別として、品井沼を知らない外国の方に「いずれかのシナイと関係ありますか」と聞かれたら「???」ではなく、「そのシナイとは全く関係ありません」と答えましょう。そして、いつの日かシナイモツゴがこれらのシナイに並び伍される日が来ることを期待します。



宮城県大崎市かしまだい

さと まい

シナイモツゴ郷の米 通信

安全で安心な美味しいお米！



天然記念物シナイモツゴの産地に沿った田圃の自然再生と循環型農業に取り組むお米です。



収穫後、すぐに発送いたします！

「復興を祈念して、いよいよ新米の収穫です！」

黄金色に輝く稲穂の波。震災や台風にも負けずしっかりと丈夫な根をはり、刈り取りが始まりました。

今年も、きれいな水を使用し、減農薬・減化学肥料で栽培した、お米本来の粘り・香り・味が堪能できる、地域の想いが詰まった安全で安心なお米をお届け出来ることに心から感謝...

「かしまだいシナイモツゴ郷の米」も発足四年目、小さな取り組みもおかげさまで好評の輪が広がり、多くの皆様にご愛顧をいただいています。

今年も、地域を支える想いを大事にしながら、品質には特にこだわって、美味しいお米が出来るように取り組んでできました。皆様のご愛顧どうぞよろしくお願いたします。会員一同

郷の米の取り組み

<平成23年度>



①天然記念物シナイモツゴがすむ「溜め池」の草刈り・池干し・補修作業など、環境保全活動を行っています。



②子どもたちによるシナイモツゴの放流会を毎年開催。



③農業用水の水質調査を、NPO法人シナイモツゴ郷の会が実施。(年2回)



④減農薬・減化学肥料で栽培した「ひとめぼれ」。今年の生育も順調で、後は刈り取りを待つばかり！



⑤収穫後、丁寧に乾燥・調製します。

収穫祭の様子

<平成22年度>



シナイモツゴのお話し

昨年10月2日、仙台市や富谷町などから50人程が集まって、恒例となった郷の米の収穫体験会を実施しました。



稲刈り前に作業説明

子どもたちや農業に関心のある方も多く参加し、初めての稲刈りや棒がけ作業に汗を流しました。終了後には、郷の米の新米おにぎりや地元の野菜がたくさん入ったとん汁をみんなでいただき、参加者皆さん終始笑顔で楽しい収穫祭となりました。



家で稲刈りすると楽しい！よいしょっと！



新米いただきます！

シナイモツゴ郷の米 好評販売中です！

【平成23年度産 減農薬・減化学肥料栽培 ひとめぼれ】

櫻下開花亭 郷の米が食べれるお店！

Aコープ鹿島台店

スーパー吉村

すがい酒店

セブンイレブン鹿島台店

今年もどうぞよろしくお願いたします。

取扱い販売店 4店舗

「放射性物質、不検出！」

東日本大震災時に発生した、福島第一原発事故に伴う放射線物質漏れの為、独自に放射線物質測定(検出限界値5ベクレル)を厚労省登録検査機関に検査依頼し、不検出との結果を頂きました。



【測定検査機関】

日本環境科学株式会社

【放射性物質測定内容】

ヨウ素-131 セシウム-134

セシウム-137

検査報告書

9月7日、放射線物質検査のため刈り取りを実施し、玄米と精米を検査機関に郵送。

●つくる人・食べる人・みんなの力で地域の環境と農業を守り続けるために！

■お申し込み・お問い合わせは「かしまだいシナイモツゴ郷の米つくり手の会」事務局 まで

〒989-4102 大崎市鹿島台木間塚字福芦464-28

TEL&FAX/ 0229-56-5746

ホームページ更新中！(^-^)

<http://satonomai.jp/>

共同
シンポジウム

～水辺の自然再生～

震災を乗り越える 力強い活動

自然再生



開催日時：2011年11月19日(土) 10:00～17:00
場 所：東京海洋大学白鷹館 東京都港区港南4-5-7
参加費：無料 情報交換会(18:00～ 楽水会館 会費5000円)

よみがえれ



第1部 自然再生活動と環境保全米

基調講演1 ラムサール登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」地域での取り組み

環境保全型農業と保全米生産の戦略と実践 西澤 誠弘(伸筋ふゆみずたんぼ生産組合)

基調講演2 大崎市 かしまだいシナイモツゴ郷の米

地域の宝シナイモツゴが育む里山での循環型米づくり 吉田 千代志(かしまだいシナイモツゴ郷の米づくり手の会)

第2部 震災を乗り越える自然再生活動

基調講演1

壊滅的被害を乗り越えて取り組む遺伝的多様性研究 池田 実(東北大学 女川フィールドセンター)

基調講演2

災害発生にも対応する生態系多様性保全ー超個体群の保全 細谷 和海(近畿大学)

パネルディスカッション 座長 小林 光(全国ブラックバス防除市民ネットワーク)

話題提供1 先端的自然再生技術の研究

深泥が池の保全戦略 竹門 康弘(深泥池水生生物研究会、京都大学)

生殖細胞の凍結による魚類遺伝子資源の保存 吉崎 悟朗(東京海洋大学)

外来魚根絶を目指すフェロモン研究 藤本 泰文(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

話題提供2 震災を乗り越えて継続する保全活動

天然湖沼生態系伊豆沼・内沼の取り組み 嶋田 哲郎(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)

水田生態系水田魚道による在来魚復元の取り組み 三塚 牧夫(ナマズのがっこう)

ため池生態系旧品井沼周辺ため池群の取り組み 高橋 清孝(シナイモツゴ郷の会)

ため池生態系都市公園における外来魚防除活動 天野 隆雄(三ツ池公園を活用する会)

主 催：NPO法人シナイモツゴ郷の会、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団、
全国ブラックバス防除市民ネットワーク、ナマズのがっこう

共 催：東京海洋大学

後 援：大崎市、大崎市教育委員会、JAみどりの、NPO法人農村地域づくり支援隊、
公益財団法人大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)



< 問い合わせ先 NPO法人シナイモツゴ郷の会 MAIL:shinaimotsugo93ks@yahoo.co.jp TEL:0229-56-2150 >

シナイモツゴ里親活動報告

理事長 二宮景喜

5月から現在までの里親活動について報告します。

今年の里親校での里親活動はさまざまな悪条件の中で始まりました。地震の被害は、多かれ少なかれ全部の学校におよび、数々の支障がありました。活動のスタートがすっかり遅れた上に、追い討ちをかけるように、6月の高温など異常天候が続き、シナイモツゴ繁殖池では発眼卵の確保に苦労しました。

まず、昨年から育てた稚魚の回収ですが、前回報告いたしましたように、東松島市の小野小学校と石巻市の開北小学校の池では、直前まで群れをなして泳いでいた稚魚を津波のために一瞬にして失いました。しかし、鹿島台小学校からは予想を上回る117尾を回収、また仙台の鶴谷小学校から112尾、松陵小学校から97尾の回収があり、300尾以上の確保ができたことは幸いなことでした。これらの稚魚のうち大部分は6月28日に鹿島台地区のため池に放流されましたが、詳しくは別ページの浅野理事からの報告をお読みください。

地震の被害を受けた学校池の対策も緊急の課題でした。鹿島台小の池の大きな亀裂は、5月25日に郷の会のメンバーが本格的な修理を行い、水漏れを防ぎました。また、塩水の入った小野小学校の池は、5月20日に子供たちとの共同作業で清掃し、水質計で測定しながら塩分濃度が0%になるまできれいにできました。開北小については先生方のご尽力で、復旧していただきました。ほかの小学校については池そのものの補修は特に必要はありませんでした。

次に、今年から植物性プランクトンを発生させようとして、ミジンコを増やす新しい方式を試みることになり、5月下旬から6月初めにかけて、その作業を始めました。しかし、他の池ではうまくいきましたが、小牛田小と鹿島台二小では地面に埋め込んでいない大きな水槽を使っているという条件のためか、植物性プランクトンとミジンコがバランスよく発生せず、何回もグリーンウォーターや化成肥料を追加することになりました。

この作業と並行して6月5日から産卵ポットを繁殖池に設置しました。学校池のミジンコの発生状況に合わせて発眼卵を採取、6月中旬から各校に搬入する予

定でしたが、主に高温の影響と思われますが、今年は産卵状況が悪く、必要な個数を確保できない日が続きました。郷の会では、毎年新しく里親になった子どもたちにシナイモツゴのレクチャーをしており、卵の搬入の時は、卵の観察も授業の中に組みこんでいただいています。しかし、今年は見てもらうだけのわずかな卵しか持っていけないことが多く、その結果、例年なら1回で済むところを、どの学校にも2度あるいは3度と卵を追加することになりました。そのため、繁殖池での作業と小学校に出かける回数が増え、それにかかる人手と時間の確保に今までにないような苦労がありました。



郷の会インストラクターの説明を聞く鹿島台小学校の里親たち（2011年6月）

このようにして、卵の追加は7月中旬過ぎまで続けました。夏休み明けの現在、ほとんどの学校からは、孵化した稚魚が2～3センチまで成長し、餌を求めて元気に泳いでいるという報告が来ています。その一方で稚魚がほとんど見えないという報告もあります。産卵だけでなく、孵化したばかりの稚魚にとって今年の猛暑は耐え難かったのかと心配もしております。

今年は何かと苦労が多く、里親活動も辛抱を強いられる年ようです。あきらめずに今を乗り越えることで、今後さらなる成果を上げるためのステップにしたいものです。

シナイモツゴ放流会に参加して

浅野 功

6月28日火曜日、鹿島台西部のため池で、恒例となったシナイモツゴの放流が行われました。この放流会は、ブラックバスなどの外敵のいない安全な池に、絶滅危惧種であるシナイモツゴの生息域拡大を目的とし、シナイモツゴ郷の会とシナイモツゴ郷の米づくり手の会、そして大崎市立鹿島台小学校が



ブラックバスを退治したため池へシナイモツゴ稚魚を放流する鹿島台)小学校の里親たち

主催で行われています。

鹿島台小学校の4年生の児童は里親制度の主役たちです。4年生になるとシナイモツゴについて学習、活動しています。授業ではシナイモツゴについて飼育方等を含め理解を深め、活動については、ため池の清掃をしてシナイモツゴの卵の受け入れ、餌やり、水管理等世話をし成魚に育て次の4年生に引き継がれています。

この放流会では里親である鹿島台小学校をはじめ同様の活動をしている仙台市立鶴谷小学校、仙台市立松陵小学校の児童の皆さんの世話により卵から孵化し育ったシナイモツゴ、合わせて250尾を放流するというドラマチックな行事です。

当日は朝方小雨が降り、天気は心配されましたが、現地のため池では準備開始前に雨は上がり、周りの木々の緑が鮮やか映え、回復した空に広長地区行政区、広長地域環境保全隊、郷の会の皆さんがほっと

胸を撫で下ろし会場準備に力が入りました。10時にスクールバスに分乗した鹿島台小学校の4年生の児童94名が校長先生、先生方と共に、「ストップ・ザ・ブラックバス」と表示された旗が並ぶ道を元気な声であいさつしながら到着しました。開会行事では鈴木郷の会理事から放流会の流れについて、吉田郷の米づくり手の会会長から豊かな自然から生まれる米作りと自然の大切さについて、校長先生からは里親活動の意義について挨拶の中で話されました。放流は各組の各班代表児童18人によって行われました。5、6人ずつ代わる代わるため池の岸辺に降り、小さいバケツに入ったシナイモツゴを大丈夫かなあ〜と心配そうにそっと放流していました。放流されたシナイモツゴは勢いよく泳ぎだすもの、周囲を確かめながら泳ぎだすもの、大半は群れをなして深みに向かって泳いでいきました。児童たちも「早く大きくなあ〜れ」「元気で」等願いながら見送りました。ほかの児童たちもその様子を立ちあがって見守っていました。拍手もわきおこりました。最後に高橋副理事長からシナイモツゴについての学習会が行われ、一層シナイモツゴについての理解、関心が深められました。今回放流された数は250尾。このため池に多くのシナイモツゴが繁殖、生息することを心から祈りつつ散会しました。

全国からの応援に感謝

東日本大震災で被災された会員と関係各位にお見舞い申し上げます。

全国の多くの仲間からお見舞いと暖かい励ましの言葉をいただきました。お陰様で、当会は活動を継続することが出来ました。

会員一同、深く感謝し、御礼申し上げます。

グリーンウォーター作成に挑戦中 丹野 充（ミジンコ研究会）

グリーンウォーター（以下 GW とします）は植物プランクトンが大量に繁殖した緑色の水のことで、これを造ることになったのは、毎月のミジンコ勉強会にて、各自がミジンコサンプルを持参して、ミジンコの種類を同定しているうちに、体内の消化管にグリーン緑藻類と思われる植物プランクトンの痕跡を見つけたことがきっかけです。

まず、GW を作成するために、原料を探しました。市販の化成液肥や酵母菌などからも GW は出来ませんが、ミジンコの飼育には適しませんでした。原因はよく判りませんが、おそらく完全に分解されない原料が少し残って、水質が悪化しやすくなるためではないかと推測しています。そこで、以前から盆栽や畑作に魚粉液肥を使用していたことを思い出し、魚粉に鶏糞と米糠を等量ずつ加え、9 倍量の水を加えて混合し 10%濃度の「液肥原液」を作成しました。

液肥原液に水を加えると、早いものでは 4~5 日目くらいから GW として使えるようになります。はじめは有機質を細菌が盛んに分解しています。この有機質と細菌の関係は GW の濃度を決める大事な指標になります。

液肥原液を水で薄めて、所定の濃度の液肥を作成します。約 1 週間で 1%液は薄い緑色に変わり、2%液も少し濃い緑色になってきました。この 2 つの GW には細菌がほとんど見られないことを確認したので、ふ化直後のメダカやゼニタナゴ稚魚の水槽へ朝夕 1 ヶ月間ほど与えたところ、かなり良い成績が得られました。

10 日目には 4~8%の液肥も緑色になり、少し大きい緑藻類や小さなクロレラも発生してきました。

GW 発生初期には極小の緑藻類が水中を浮遊して孵化直後の稚魚の餌料になります。

10%濃度の液肥では緑化の速度は遅くなり、20~30 日以上かかります。これは液肥濃度が上がるにつれて、細菌による分解に時間がかかるためと考え

られます。しかし緑藻類、細菌(有機物)の密度は高くなりますが、有機物が消化されて、長期間の GW の使用が出来ます。従って、GW の使用期間と必要量に応じて液肥濃度の調整が必要になってきます。

ここで、GW 作成の速成法を紹介します。各種濃度の GW を造りながら、定期的にプランクトンの種類と数量を顕微鏡で観察しています。この中で最良の GW を 1/3 位残して、種液として再利用を繰り返します。

例えば、750cc の広口ビンに GW200cc を種液として残し、液肥 20cc と水を加えます。日照や水温で若干、GW の生成に差はありますが、およそ 4~5 日で緑化し給餌に使えます。

概ね以上のことですが、最後に感じたことや考えていることをお話しします。

この GW を使用すると水質が悪化しないので、ミジンコ類の培養にとどまらず、稚魚の生存率向上や成長を向上させることができました。



培養実験風景： 開始 10 日目の濃度の異なる液肥の広口瓶、左より 1%、2、4、6、8、10、12、15%、低濃度の液肥は緑化して GW として利用可能

液肥濃度については、給餌する時期と量の関係から 2~5%前後が良好です。さらに、良質な GW の培養液を種液としてリサイクルすれば、さらに作成時間を短縮可能であり、確実に作成できるようになります。

沼の希少な水草－アサザ

4月下旬から毎週日曜日に訪れる宮城県伊豆沼では、7月になると幻想的な水上花園が出現します。中でも目を引くのはアサザです。6月になると、ブラックバスなどの駆除作業をしながらも、開花が待ち遠しくて、毎回、花を探し回っています。

水面に浮かぶ葉はガガブタやヒツジグサと同様に楕円形ですが葉の周縁がギザギザなので、花が咲く前でも簡単に見分けることが出来ます。

可憐な花は6月下旬から咲き始め、8月まで楽しめます。何と言っても鮮やかな黄色に目を引かれますが、私達と同様に、昆虫たちも集まってきます。



写真1

伊豆沼の植物群落：手前にガガブタやオニヒシ、中央にアサザの黄色の花、沖側にはハスの大群落が広がる。

水辺の仲間たち③

高橋 清孝

アサザは、種子も生産しますが、主に根（地下茎）を伸ばして増殖し、1つの群落はクローンであることが多いようです。

同じように地下茎で増殖する種類として、ハス、ガガブタ、コウホネなどがあります。伊豆沼ではハスの勢力が最も強く、現在も拡大中です。ハス群落が拡大するにつれて、他の3種が毎年減少しているように見え、気がかりです。

冬の伊豆沼は野鳥の楽園として有名ですが、夏にはここでしか見られない様々な水草や昆虫を楽しむことが出来ます。是非、伊豆沼の自然再生ボランティアに参加して、貴重な大自然を実感して下さい。



写真2

葉は周囲のギザギザが特徴的で開花期以外でも判別容易。花は鮮やかな黄色で水面から数 cm 立ち上がって開花する。

シナイモツゴBC通信から (No. 191 : 6月10日配信)

会員の情報共有のための配信メールです。受信ご希望の方はご連絡下さい。

みなさま

シナイモツゴ繁殖池のシナイモツゴが産卵盛期を迎えています。ゼニタナゴ稚魚も大量に元気に水面浮上しました。シナイモツゴ里親による放流会を開催します。

イベント情報

① シナイモツゴ里親会の作業スケジュール

6つの里親小学校で準備が進められています。人手が足りませんのでお近くの方はご協力ください。

シナイモツゴ卵の搬入

東松島市立小野小学校 6月15日 水

仙台市鶴谷小学校 6月16日 木

仙台市松陵小学校 6月16日 木

鹿島台小学校 6月24日 金

放流会

鹿島台広長地区ため池

6月28日(火) 予定

1年がかりで卵から育てた稚魚300尾を鹿島台小の里親が放流します。

*詳細は二宮理事長あるいは鈴木康文理事へお問い合わせください。

② ミジンコ勉強会

ミジンコ研究会の勉強会を開催します。

期日：6月18日(日) 16:00～

集合場所：鹿島台公民館

③ 伊豆沼バスバスターズ

震災の影響で、被災した会員の参加が減少し、当会が中核メンバーとなっています。

是非多くの方々のご参加をお待ちします

期日：毎週日曜日 9:00

場所：伊豆沼サンクチュアリセンター

鹿島台から出発の方は乗り合わせて向かいますので、高橋までご連絡ください。

6月12日(日) 鹿島台駅8:00出発 宮城大学から8名参加予定です。

伊豆沼で駆除活動終了後に鹿島台シナイモツゴ繁殖池の調査を行います。

④ 定例会・理事会

期日：6月18日(土) 18:00～

場所：鹿島台公民館

NEWS

① 阿武隈川福島県支流で放射能汚染 ヤマメでセシウム基準値超え

福島県東電原発事故による放射能汚染が淡水魚に拡大しました。

養殖魚では検出されないそうなので食物連鎖による蓄積と考えられます。

現在 心配されているのは溪流魚とアユなどです。

福島県内阿武隈川のヤマメ出荷規制 読売新聞 6/6

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20110606-OYT1T00978.htm>

宮城県内の支流では検出されたものの基準値以内でした。今後も引き続き注意が必要です。

以下の広報を参照してください。宮城県内阿武隈川のヤマメは基準値以内 宮城県広報 6/9

<http://www.pref.miyagi.jp/syokushin/nuclear/press/110609press.pdf>

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。